

やったこと(主に4~5月)

■ぐるっこのいえ@はままつ

- ・余白ネットワークミーティング(5月2日)
- ・かわりばんごはん(5月22日)

■インターネット

- ・余白書店オープン(5月2日)
 - ・Facebook ページオープン(5月2日)
- 余白書店プロジェクトをはじめました。どんな「あそび」ができるのかいろいろ模索中です。

■ぐるっこのいえ@とうきょう

- ・関西人の日(5月12日 18:00-) 参加者 4名
- 小説『細雪』に出てくる「お見合い」の場面を取り上げて、参加者と結婚やお見合いに対する捉え方・考え方を話したり、恒例となりつつある「ちえさんの手料理」(今回は小説に度々出てくる支那料理)が振舞われました。

■東京

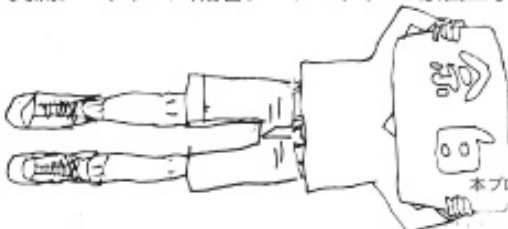
- ・余白人生ゲームをつくってみる。
- 第一回 3月24日 @Jessica(東京都豊島区) 参加者:2名+1
第二回 5月3日 @本郷はなれ 参加者:5名+1
[余白人生ゲームをつくる。] 記録
<http://yohaku-life-of-game.tumblr.com/>

■浜松

職場で散歩をつくっています。季節や体調により決行不能のことがあります。参加者は随時募集中です。お近くの方や、浜松にお越しの際はどうぞお立ち寄りください。(小林橘花)

■大阪

- ・余白について語る夜(4月12日 19:00~)・・・AAF2013 勝手交流プログラム(輪音プロジェクト×余白工事の会)



ASAHI ART FESTIVAL 2013

本プログラムは、「アサヒ・アート・フェスティバル2013」と連携しています。

地に足ははじめからついてない(たぶん⑤)

小林橘花

浜松に来て半年以上が立ちました。初めての週五日、フルタイム労働です。生活も、初めての一人暮らしで、一からいろいろやらなければならなかったけれど、ようやく慣れてきたような気がしています。車がたくさん走っていて、広くて真っ直ぐ続くバイパスがあって、大きなイオンがある。そんないわゆる地方都市郊外みたいな風景のなかに住んでいます。

仕事は、大体朝九時からです。あまり、間に合いません。職場までは自転車で10分くらいです。テレビを目覚ましがりわりにして、6時半くらいからEテレが流れるのですが、起きるのはぎりぎりになってしまいます。

毎日、同じ時間に同じ場所に通うというのは、高校二年生以来のことなんじゃないか、と思っています。いつどこに、と考える必要がない分、楽といえば楽ですが、気持ちが悪いです。

一年間の契約なので、10月までで一応契約は切れます。まともに働いたことがなかったのに、よくもっているなあとたまに自分に感心したりもします。でも、慣れるごとに、気をつけていないと、自分の嫌っているものやなりたくないなにかに、なってしまいそうで、すごく怖いです。

地に足ははじめからついてないのに、うっかり"ついてる"、だなんて思ったら、足元掏われそうで怖い。ま、はじめからついてないんだから、掏うような足元なんてありません。

6月、7月やること(予定)

□6/15 AAF オープニングパーティに参加

□ぐるっこのいえ@はままつ

6月5日(水) かわりばんごはん第2回
(料理担当:小林橘花)

※その後も隔週水曜日開催予定

□熊本河原町

7月13~15日 熊本河原町と交流プログラムがあります。

□ぐるっこのいえ@とうきょう

6月15日 関西人の日(AAFの日やけど、どうしよう……)
前回に続き『細雪』(上)20章一を紹介予定。

□場所不定、各所

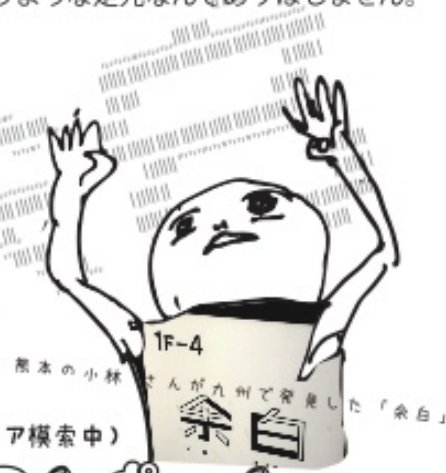
決まっていますが、余白人生ゲームは随時やる予定です。現在東京で使っている人生ゲーム(B&B(2003))しかありません。

いらなくなった人生ゲーム、募集中です。出張も致します。
kikka.kobayashi@gmail.com までご連絡ください。(小林)



クリエイター(zine)

(新レイアウト & メディア模索中)



原本の小林さんが九州で発見した「余白」

ぐるっこのいえ浜松では、参加者が「かわりばんこ」で「ばんごはん」を作ってみんなで食べる「かわりばんごはん」をはじめました。場所は違えども、「客を客扱いしない家」という点では、東京も浜松もぐるっこのいえ。初めましての方も、どうぞ自宅だと思って気楽に過ごしてください。というつもりで始めた矢先、ココロームの茂木さんから「ギャラリー来たみたいで落ち着かない。部屋に余白を」というコメントが…。余白の拠点なのに余白がない…。自分にとって心地良い部屋が、他の人にとっても心地良いとは限らないという当たり前のことを、あらためて感じたのでした。さて、どうしようか、余白…。(石橋愛)

余白工事の会

今回の担当は・・
長者町 加藤 正浩さん

部屋

去年
いただいていた原稿
遅くなってごめんなさい！！
ありがとう
ございます！！



【余白ネットワーク ~〇〇をDIYする! ~】に寄せて

1. 「ぐるっこのいえ」を訪れて

2012年度のAAFのキックオフパーティの余韻も冷めやらない翌日、「秋葉原ネットワーク実行委員会」の活動拠点である「ぐるっこのいえ」を訪れてみた。宣伝のフライヤーには確か「場所は文京区湯島」程度の文字が。全く分からず焦ったが、あの手この手で何とか都内某所を突き止め、中にお邪魔してみると、冠さん他みなさんが暖かく出迎えてくれた。

その後間もなく、昨日のAAFでお会いした方、新しく「はじめまして」の方、色々な方が集い始めた。気が付いたら家はにぎやかな場へと変貌し、あちらこちらで人々が思い思いの時間を過ごす場と化した。取材を始める方、自分の趣味について大いに語る方、アート作品の解説をする方、女装の方、その他もろもろ。

ただ、各々が異なるバックグラウンドを持ちながらも、そこに集い、自分のありのままの姿をさらして過ごせる場所なんだな、と率直に感じた。そこには「正解」や「価値基準」の尺度などはない。ただあるのは、多様性のある人々を受け入れ、好きのように思い思いの時間を過ごしてもらうこと。そして、それでいいんだというまなざしだった。

2. 「余白ネットワーク ~〇〇をDIYする! ~」の意味を考える

僕は、現代社会は非常に生きづらいと感じている。自殺者は相変わらず年間3万人を超える高水準が続く。特に無職で社会に居場所がない人の比率が高いようだ。そのような、社会の枠組みから外れてしまった「社会的排除 (social exclusion)」の状態にいる人、それは自殺者の統計の数字以上の数に上っていることは想像に難くない。生きづらさを感じている人は本当に多いと思う。

もうだいぶ前になってしまうが、日本が戦後の高度経済成長の中で経済・個人所得・雇用などが右肩上がりの時代は、「一億総中流・終身雇用・年功序列」という国民が安定した人生を送れる時代であった。大雑把に言ってしまうと、これから来る明るい未来への希望が持て、会社・自治体など既存の枠の中で安住することができた。その時代には確かな「枠」があり、こうすればいいという確かな「価値観」が存在していた。

現代はどうだろうか。円高・グローバル経済・少子高齢化・生産人口の低下など激しい社会環境の変化の下、大手電機メーカーを始めとして多数の人員削減や賃金カットなど、これまでの日本社会を支えていた確固たる「枠」・「価値観」がガタガタと音を立てて崩れてきている。そして、「失われた20年」と言われるように、日本社会全体に閉塞感が強まっている。このような状況の下、「枠」・「価値観」から外れてしまった人に対して、語弊を恐れずに言えば、多くの人はまだ理解が足りていないのではないだろうか。

そんな現状を打破する取り組みの1つ、それが「秋葉原ネットワーク実行委員会」主催のプロジェクト「余白ネットワーク ~〇〇をDIYする! ~」であると思う。ある組織に所属していながらも、その組織の枠から外れていると感じる「枠外感」を抱える人を包摂し、そして各々が持つ価値観を尊重し、それを自由に表現してもらうこと。それができる場を活動拠点である「ぐるっこのいえ」で展開している。この活動を僕は、最近目にするようになった「社会的包摂 (social inclusion)」の実践の場とも捉えられたいと思っている。

ただ、この活動の特異な点であり特徴でもあるのだが、既存のコミュニティ作りを考えたとき、当然「何の」コミュニティなのか、何の目的に集まる集団なのか、という共同体を形成するに当たり必要不可欠な部分をあえてパラドキシカルに捉え、実践している。個人個人の志向や特性、癖など様々な違いが存在すること、またそれを前提としてコミュニティが作られているところ、そこにオルタナティブな共同体の可能性を見出すことができる。そして、そこに僕は更に「創発 (emergence)」的な意義を見出したい。

集団を構成する一人一人が、各々異なる目的や価値観を持って共同体を構成する以上、自分1人では考え付かなかったこと、もしくは集団として集まることで初めてできるようになること、そういったバラバラな状態ではできなかったことができるようになる可能性を「余白ネットワーク ~〇〇をDIYする! ~」は秘めていると考える。無論、様々な人が抑圧なく共にいられる状態を作り出すのが目的なのだから無理強いすることではないが、当初予想だにできなかった創造的な表現が生まれてきたり、ネットワークが形成されて来たりすることはあり得る。これは本活動に特有の可能性を秘めた面白い特徴と言えるのではないだろうか。

3. 未来へ

僕は、人がどんな境遇になろうとも、日本国憲法で規定されている通り、健康で文化的な最低限度の生活を送れるような社会、それが理想だと思っている。社会に居場所があり、自分のアイデンティティやレゾナントール (存在意義・存在価値) を失わず生を全うできる社会、それが本来有り得るべき理想郷なのだろうと思う。

それは、まだまだ理想の域を脱せず、理想のまま時は過ぎ去っていくのかもしれない。しかし、「余白ネットワーク ~〇〇をDIYする! ~」の活動は、その理想へと向かって進んでいった航海船のように思う。これからも、行けるところまで航海をしていこう。その中で、未開の地を切り開き、社会に対して提示していく、そのような冒険的で創造的な活動をこれからも応援していきたい。

加藤 正浩

2012年より長者町まちなかアート発展計画メンバーに参画
<http://cmahpj.jimdo.com/>

学部卒業以降、ふと「何か」と「何か」をつなぐものとは? という不思議な問題に興味を持つ。当初、それは進化論だ! と思い大学院に行ってみるも、色々あり挫折。

しかし、他の専攻で活発に研究されていたメディアアートを眺めていて、タコツボとなりつつある各学問分野が、アートとして表現されることでつながっているように見え、初めてアートの興味を持つ。

その後、メディアアートを興味の基軸としながらも、対象をアート全般に広げ、各地を巡っている。

クリエイターズ (zine) 第4号

・発行者 余白工事の会

・発行日 2013年6月13日

・お問い合わせ・執筆希望 akihabaranetwork@gmail.com

・URL 余白ネットワーク~あそびがある! (Twitter) ~

<http://akihabaranetwork.seesaa.net/> (ブログ)

<https://www.facebook.com/Yohakunetwork> (Facebookページ)